



## オ・ア・シ・ス (7月1日の全校集会より)

南小学校には、オアシスという名前がついているオアシス山があり、月に一度、オアシス活動があります。

では、オアシスという言葉には、どんな意味があるかみなさんは知っていますか。校長先生は調べてみました。オアシスという言葉の意味として、  
 1つ目に「砂漠の中で、水が湧き、樹木の生えている所。」  
 2つ目に「疲れをいやし、心に安らぎを与えてくれる場所。憩いの場。」と書いてありました。憩いの場というのは、低学年の人にはちょっとわかりづらい言葉かもしれませんが、言い換えれば安心して、ほっとする場所ということだと思います。

南小学校にある「オアシス山」は、今から26年前に南小学校ができたときに、初代のPTA会長の川端さんたちが何もまだなかった校庭に、子どもたちが遊ぶ場所を何か作ろうと働きかけて作ってくれたのだそうです。みなさんが駆け上ったり、駆け下りたり、あるいは滑り台で滑ったり、楽しく遊ぶ場になっていると思います。

また、オアシス活動のねらいは、「異学年の友だちとの活動を通し、互いに認め合い支え合うことができる関係を築くとともに、集団の一員としての自覚を高めることです。6年生が中心となって活動を考え、1年生から6年生まで様々な活動をいっしょにすることで交流を深めている姿を毎回見させてもらっています。

さて、みなさんはそのほかにオアシスという名前のついている「オアシス運動」というのがあることを知っていますか。オアシス運動は挨拶の言葉の頭文字をとったもので、

オ：「おはようございます」または「お疲れさまでした」

ア：「ありがとうございます」

シ：「失礼します（失礼しました）」

ス：「すみません（すみませんでした）」

を日ごろから言えるように心がけようという運動です。

昨年の7月の全校集会でみなさんに「元気に挨拶をする大切さ」について話をしましたが覚えているでしょうか。その中で、「挨拶から会話が始まる」ということを話しました。オアシスの「オ」、「おはようございます」という挨拶をきっかけに会話が始まります。そして、挨拶は人と人とをつなぐ魔法の言葉なのだということをお話しました。

また、「相手からの印象が良くなり、人間関係も良くなる」ということを話しました。今年度、校長先生は2年生の算数の授業を見に出ていますが、一生懸命教えてあげると多くの方がオアシスの「ア」、「ありがとうございます」と言ってくれます。また、みなさんが、職員室に入るときにオアシスの「シ」、「失礼します」と言っています。そういう姿を見た時、南小の子どもたちはとても礼儀正しい子ども達だと、とても良い印象を受けます。

何か失敗をしたり、相手に迷惑をかけてしまった時、オアシスの「ス」、「すみません」と素直な気持ちで謝ることで人間関係が良くなることも多いと思います。

そう考えると、この「オアシス運動」はみなさんがこれからの人生を生きていくうえでとても大切なことだと思います。ぜひ、これからの学校生活の中で「オアシス運動」を心がけていってください。

校長先生は、この南小学校がみなさんにとって、心や身体を成長させる場だけでなく、憩いの場所、安心してほっとする場所、すなわちオアシスになってほしいと思います。

## 「米作り」第2弾、田植えが行われました！

7月5日（金）、雨天のため順延になった田植えが4年生と5年生によって行われました。子どもたちにとって、機械化が進む中で昔ながらの手作業による田植えをしたことは貴重な体験であり、主食であるお米の栽培過程を知ること、食に対する関心が高まり、知識や農業理解も深まったと思います。

5月に蒔いた籾も大きく成長し、立派な苗となりました。地域協力者の説明を受けた後、こわごわと田んぼに足を踏み入れ、最初はぎこちなかった子どもたちも次第に慣れてきて、大変上手に植えられるようになりました。朝早くよりご協力いただいた地域協力者の方々、PTA本部役員の方々、保護者の方々、本当にありがとうございました。

※ 紙面の都合上、その他の田植えの様子の写真は、ホームページの南小だより第8号に掲載しましたのでご覧になってください。



## 子どもの心と向きあう (前号の続き)

子どもの様子が気になるとき、もしかしたら「どうしたの?」「何があったの?」と、問いつめてしまうことがあるかもしれません。しかし、これでは自分の気持ちを伝えたいと思っても、話ができないかもしれません。まずは、子どもの気持ちや状態を聞くことからスタートしましょう。そのための具体的な方法についてご紹介していきます。

### ◎まず話を聞いてみる

いやなことや悩みがあるとき、話を聞いてもらっただけで、問題が解決していなくても、気が楽になったという経験は誰にでもあるはず。とくに、心に不調を感じているときは、自分でも不安でつらい気持ちでいっぱい。いきなり「病院に行こう」と言うよりも、まずはそんな不安な気持ちを聞いてあげましょう。

### ☆話をすることのよさ

○感情を吐き出すことができ、モヤモヤした気持ちがすっきりする。

○話を聞いてくれる人がいるという安心感を得られる。

○真剣に話を聞いてもらえることで自尊心が高まる。

○人に話すうちに、自分の問題が客観的に見られるようになり、どうすればよいのか見えてくることもある。

○ストレスへの対処能力が増す。

### ☆話を聞くときに知っておきたいこと

○話してくれないときは、無理強いはいしない。

○話してくれなくても、あきらめず、「いつでも聞くからね」と伝え、話してくれるのを待つ。

○自分の弱い部分や不安について人に話すのには抵抗がある。

○話してくれてありがとうという姿勢で聞く。

誰だって自分の心の問題について話すのは、勇気がいるものです。「こんなことを言って、変だと思われるかも」「こんな私は嫌われるかも」と話すことへの不安もあるでしょう。ですから無理強いせず、話してくれるのを待ちます。話してくれたら、「つらいことを話してくれてありがとう」とねぎらうことも大切です。「気にかけている」「心配している」ということを伝えれば、それを拒否することはあまりありません。比較的落ち着いているときを見計らって、「最近の様子心配なの、よかったら話してくれないかしら?」と、声をかけてみましょう。



### ◎話を聞くときのポイント

自分が悩みを抱えているとき、どんなふうに話を聞いてもらいたいですか? アドバイスをされるよりも、まずはただ「そうなんだ、それは大変だったね、つらかったね」と受け止めてもらいたいのではないでしょうか。家族として、心配な気持ちや「〇〇すべき」という意見、「〇〇してほしい」という考えがあるのは当然でしょう。しかし、それはちょっと脇に置いて、じっくりと子どもの気持ちに共感し、受け止めることが大切です。

### ☆具体的な声かけの例

「学校に行きたくないほど、つらいんだね」

「最近、元気がないように見えて、心配なの」

「頭痛や腹痛が多いみたいね。どうしたのかな。どんな調子かもっと話してくれない?」

「あまり家族と話をしなくなっただけ、お母さんはあなたと話がしたいわ」

「お友達とケンカすることが多くなっただけ、何かあったのかな? よかったら話してくれないかな?」

「そうか……〇〇なんだね」と、子どもの言葉をくりかえす。

子どもが話し始めたら、まずは聞き役に徹します。自分の考えや意見を差しはさむことや、それはダメだ、違うなどと否定することは避けましょう。

子どもはどんなふうに感じているのでしょうか、どんな気持ちでいるのでしょうか? 子どもの気持ちに共感するとは、子ども自身の感じ方を理解するつもりで聞くことです。そして、子どもの気持ちをしっかり受け止める姿勢が大切です。自分の気持ちを理解して話を聞いてくれる相手には、信頼して心を開いてくれるはず。心の不調が感じられる場合、病気はきっとよくなるということ伝えることも大切です。また親や周囲の人間がついている、一緒に乗り越えようというメッセージも大きな支えになります。

# 7月4日(木) 『田植え』 写真館

## 【田植えの準備】



## 【5年生】



## 【4年生】



## 【1年生の見学の様子】

